

## 大飯原発直下のF6破砕帯の緊急再調査に関する要請

福井県知事 西川一誠 様

昨日、活断層の専門家である渡辺満久東洋大学教授（変動地形学）と、福島瑞穂社民党党首を含む5人の国会議員が、大飯原発を訪れました。渡辺教授と鈴木康弘名古屋大学教授が、同原発直下を走るF6破砕帯（断層）が活断層である可能性が高く、近くの活断層と連動して動き、地表がずれる可能性があるとの分析結果を出しているためです。その現地調査の結果、次の2点が明らかになりました：

- F6破砕帯が同原発の取水路の下を走っていること、
- 同断層が活断層であるかどうかを確認するための掘削をすることが可能な地点が、同原発内に3箇所あること

F6破砕帯について、経産省原子力安全・保安院は「既に専門家会議で破砕帯の活動性はないと評価済み」だとしています。先の福井県原子力安全専門委員会における安全審査では、それにもとづく説明が行われ、しっかりとした審査が行われないうちにそれが受け入れられていました。しかし、市民グループ9団体の要請によって6月25日に開かれた【政府交渉】「大飯原発:再稼働を止めよう!」において、保安院の御田俊一郎耐震安全審査室上席安全審査官が、2010年の耐震バックチェックにおいては、同断層のトレンチ北側の展開図が示されないままに、再評価が行われていたことを認めています。

渡辺教授は、敦賀原発の浦底断層についても活断層である可能性が高いとの指摘を行い、本年4月に、保安院がその再調査を行うことを決定しています。保安院の専門家会議委員で産業技術総合研究所の杉山雄一主幹研究員も「大飯原発など若狭湾の原発は、現地調査であらためて状態を確認するべきだ」と言っています。渡辺教授によれば、調査のための掘削作業は、その修復も含めて数日で済むことであるとも述べています。

西川知事は、昨日の県議会における山本正雄議員の質問に対して「(原発の)安全性に上限はなく、新しい知見が得られたならばこれをすみやかに安全対策に反映させることが極めて重要」との見解を示していました。また、野田総理大臣も6月8日の記者会見において「(原発の)安全基準にこれで絶対というものはなく、最近の知見に照らして常に見直していかなければならない」と述べていました。

以上にもとづき、私たちは、西川知事に対して、次のことを要請するものです。

### 要請事項

1. 大飯3、4号機を再起動する前に、大飯原発構内のF6破砕帯の再掘削調査を第三者の立会いのもとに行うことを、政府に対して要請すること

2012年6月28日

サヨナラ原発福井ネットワーク

連絡先：越前市入谷町13-20

山崎方

TEL: 090-6271-8771